

第4学年 図画工作科学習指導案

ろ組 男子 18名 女子 19名 計 37名
指 導 者 所 崎 陽

1 題 材 思いをカードにのせて

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は伝えたい思いを基に、渡す相手の気持ちを考えながら形や色、飛び出し方を工夫して、開くと飛び出す仕組みのカードをつくる題材である。

この期の子どもたちは、他者との交流が深まり、相手を意識した言動をとることができるようになる。そのため、形や色などと自分のイメージを関係付けた作品について、こだわってつくったことを友達と伝え合うことに喜びを感じている。

また、これまでに子どもたちは、走る仕組みのある車をつくる経験などを通して、機構工作的な作品をつくる楽しさを味わってきている。さらに、イメージを基に、表したいことに合った仕組みをつくることもできるようになってきている。そして、思ったことを理由付けて説明し合い、自分の表現へのこだわりをはぐんできています。

そこで、開くと飛び出す仕組みのカードをつくることは、自分の伝えたい思いを基に、カードを見た時の相手の気持ちを考えながら形や色、飛び出し方を工夫してつくることになり、意欲的に製作に取り組むことができる。また、自分の伝えたい思いが相手に伝わるように、渡す相手の立場に立った形や色、飛び出し方などを考え、試行錯誤しながらつくる中で作りだす力を伸ばしていくことができる。そして、イメージを基にし、飛び出すものの形や色、組合せ、飛び出す仕組みの工夫などについて感じたことや思ったことを理由を付けて説明し合うことにより感じとる力を伸ばしこだわりをはぐくむことになる。さらに、カードを渡す相手が気持ちよく受け取れるように、これまで習得してきた知識・理解、技能を基に、形や色の組合せ、飛び出し方、大きさなどを考えて表したり、適切に用具を扱い相手を意識した丁寧につくったりすることで、創造的に表現する能力や態度を育てていくことができる。

このように、伝えたい思いを基に、渡す相手の気持ちを考えながらカードをつくる活動は、第6学年の題材「私からのメッセージ」で社会に伝えたいことを基に伝わりやすい画面構成や配色を工夫してポスターをつくる活動へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

画用紙や折り紙を組み合わせてつくるカードには、形や色、飛び出し方を工夫してつくる楽しさがある。厚さや色が様々に違う種類の紙は子どもたちにとって加工しやすく、折る、曲げる、切る、貼るなど、子どもたちにとって容易に加工することができる。したがって、伝えたい思いに合わせた形や色にしたり飛び出す仕組みにしたりすることができ、渡す相手の気持ちを考えながら意欲的につくることができる。

そこで、イメージを基に、形や色、飛び出し方を工夫し、誰にどんな気持ちを伝えたいのかを明確にする必要がある。とくに、伝えたい思いが飛び出すものと関係があることが大切である。その関係を捉えた上で、形や色、飛び出し方、大きさなどを考えることができるようにする。また、製作途中、友達にカードを開いて見てもらい飛び出すものやその周りのものについてアドバイスをもらうことで、互いの表現のよさに気付き、さらに伝えたい思いを膨らませて製作することでこだわりをはぐくむことができるようにする。さらに、今までの経験を生かし、材料の特徴に応じて、はさみやカッター、のり、化学接着剤などの用具を選んで用いることができるようにする。

このような学習を通して、自分が伝えたい思いを飛び出すカードに表すために想像力を働かせ、思いに合った材料を使い、意欲的に製作する楽しさや喜びを味わい、創造的につくっていく能力や態度を培うことで表現へのこだわりをはぐくむことができると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちはこれまでに表したい思いを基に、空き箱や紙などの身の回りの材料を使って、切ったり、折ったり、組み合わせたり、丈夫につくったりする経験をしてきている。

そのため、子どもたちは自分の思いを作品に表し、つくる喜びを味わってきている。(※1) しかし、製作の途中で意欲が落ち込み、つくりたくなる子どもが4名いる。(※2) 意欲が落ち込む理由は「思い通りにいかない」「つくるのが難しい」等である。この結果から、つくる喜びを感じながらも製作の途中で意欲が落ち込む子どもがいるので、意欲を高めていく活動を取り入れ、こだわりをもって製作できるようにする必要がある。また、仕組みのある作品をつくることにほとんどの子どもが意欲的に取り組んできている。(※3) 本題材にも意欲的に取り組めるように仕組みを十分理解し、製作できるような掲示資料等を示す必要がある。さらに、表したい思いを基に、全ての子どもがつくりたいものを想像できる。(※4) 具体的に詳しく形、色を考え、見通しをもって活動できるように、アイデアスケッチを練る段階で、鑑賞活動を取り入れ、自分の思いが伝わる構成が考えられるようにする必要がある。また、友達の作品を見るのと自分の作品を見せるのとでは好きでないと答えた子どもに差がある。(※5) 見せる

実態調査	4年ろ組	37名	(4月中旬実施)
1	図工が好きですか(※1)	はい(37名)	いいえ(0名)
2	つくっている途中でつくりたくなる時がありますか。(※2)	はい(4名)	いいえ(33名)
	〈はいの理由〉	・思い通りに行かないから(3名)	
		・つくるのが難しいから(1名)	
3	仕組のある作品をつくるのは好きですか。(※3)	はい(36名)	いいえ(1名)
	〈はいの理由〉	・動きがおもしろいから	
		・遊べるから	
	〈いいえの理由〉	・つくるのが難しい	
4	誰にどんな思いを伝えたいか。(※4)	思い付く(37名)	思いつかない(0名)
5	友達の作品を見るのは好きですか。(※5)	はい(37名)	いいえ(0名)
	〈はいの理由〉	・自分の作品に生かせるから	
6	友達に自分の作品を見せるのは好きですか。(※5)	はい(32名)	いいえ(5名)
	〈はいの理由〉	・アドバイスをもらえるから	
		・自分の工夫を知ってほしいから	
	〈いいえの理由〉	・恥ずかしい	
		・笑われる	
		・嫌なことを言われるから	
7	カッターナイフを正しく使えますか。(実技)(※6)	直線を切ることができない(4名)	曲線を切ることができない(5名)

ことによさや紹介し合うときに話す視点を明確に理解させることで、表現へのこだわりをはぐくむ必要がある。さらに、カッターナイフを使うことに抵抗を感じている子どもが数名いる。(※6) カッターナイフを手前に倒して切ることや曲線は紙をまわして切ることを理解できていないことが理由である。自分の思いを十分に表すことができるように、カッターナイフの使い方を掲示資料を活用して、理解できた上で扱えるようにする必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 飛び出す仕組みのあるカードをつくることに興味をもてるように、参考作品でカードを空けた瞬間の驚きやうれしさを感じられるようにする。さらに、意欲をもって表現できるように様々な飛び出し方があることを掲示資料で示し、つくる喜びを味わいながら製作できるようにする。

イ 伝えたい思いが明確になるように、誰にどんな思いを伝えるのかを言葉に表すようにする。さらに、伝えたい思いがカードを渡す相手に伝わるように、イメージと飛び出すものの形や色、大きさ、イメージと飛び出し方の関係を考えながらアイデアスケッチをかいたり製作したりすることができるようにする。

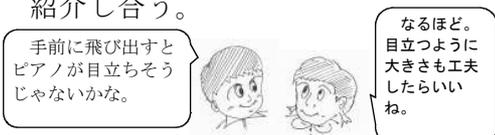
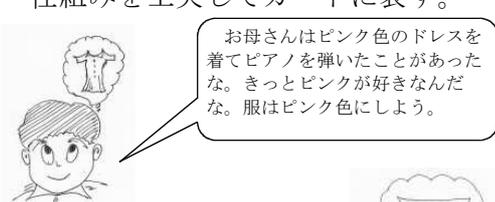
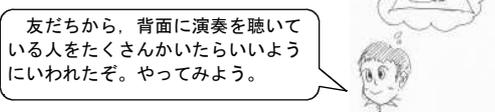
ウ 伝えたい思いが相手に伝わり、表現へのこだわりをはぐくむことができるように、製作途中、友達と互いに作品を紹介し合うようにする。その際、視点をもって紹介ができるように、イメージと飛び出すものの形や色、イメージと飛び出し方の関係について紹介し合うようにする。

エ 仕組みを理解し、伝えたい思いが相手に伝わるように丁寧な作品づくりに取り組ませたい。そのために、様々な飛び出す仕組みや適切な用具の使い方を示した掲示資料を用意し、いつでも振り返ることができるようにする。

3 目 標

- (1) カードを渡す人へ伝えたい思いを基に、形や色、飛び出し方を楽しく想像し、進んで製作することができる。
- (2) ○ 伝えたい思いに合わせて、イメージをもったり、形や色、飛び出し方を豊かに発想したりして、渡す相手に思いが伝わるように表し方を工夫して製作することができる。
○ 友達と作品について感じたことや思ったことを視点をもって話し合い、いろいろな表し方や材料による感じの違いについて感じ、表現へのこだわりをはぐくむことができる。
- (3) 伝えたい思いが相手に伝わるように、用具を適切に用い、飛び出す仕組みを理解して製作することができる。

4 指導計画（全7時間）

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け 発想	1 参考作品について話し合う。 見るポイント 飛び出すものの形や色、飛び出し方	2	○ 意欲をもって製作できるように、子どもたちにカードが届いたことを知らせる。さらに、視点をもって製作ができるように、届いたカードから工夫している点を発表し、見るポイントとしてまとめるようにする。
	2 学習のめあてについて話し合う。 イメージをもとに、形や色、飛び出し方を工夫してカードをつくらう。		○ 思いを具体的にするために、誰にどんな思いを伝えるのかを、言葉に表すようにする。 ○ 見通しをもって製作できるように、様々な飛び出し方があることを理解できるようにし、形や色を考えながらアイデアスケッチをすることができるようにする。
構 想	3 伝えたい思いに合った表し方を考える。 (1) 誰にどんな思いを伝えるかを考える。 (2) 多様な飛び出し方があることを理解する。 (3) イメージを基に、アイデアスケッチをする。	1 (本時)	○ こだわりを広げることができるように、試しにつくったカードを基に見るポイントについて話し合い、感じたことを伝え合うことができるようにする。
	4 飛び出す仕組みを試しにつくり、紹介し合う。 		○ イメージと見るポイントを関係付け、こだわりをもった製作ができるように、「なぜ、この色を選んだの?」「なぜ、この飛び出し方を選んだの?」など理由を問う発問をする。その際、思いを基に、理由付けて答えられるようにする。
製 作	5 伝えたい思いを形や色、飛び出す仕組みを工夫してカードに表す。 	4	④ 飛び出し方を選択できていない子どもへは、どの向きに飛び出すと思いが伝わるかを考えさせるようにする。
	6 中間鑑賞をする。 友だちから、背面に演奏を聴いている人をたくさんかいたらいいようにいわれたぞ。やってみよう。 		○ こだわりを深めることができるように、伝えたい思いと形や色、仕組みを関係付けて紹介し合い、今後の製作の見通しを持てるようにする。
鑑 賞	7 友達と作品を紹介し合い、お互いの活動や表現のよさを認め合う。		○ 互いのこだわりを振り返ることができるように、見るポイントに沿って紹介し合うようにする。
評 価			

5 本 時 (3/7)

(1) 目 標

- ア 試しにつくったカードのイメージと見るポイントの関係について、友達と紹介し合い、思いが伝わる工夫について考え、構成を練り、進んで製作することができる。
- イ イメージを基に、友達と紹介し合ったことを生かして、形や色、飛び出し方などを工夫し豊かに発想しながら製作することができる。
- ウ 友達と互いに、試しにつくった作品を見るポイントに沿って紹介し合い、イメージと形や色、飛び出し方などを関係付けて考え、工夫したい点を見付けることができる。
- エ カッターナイフやはさみ、のりを適切に用いて、自分の伝えたい思いが相手に伝わるように、丁寧につくることができる。

(2) 本時の指導に当たって

表現へのこだわりを広げながら製作できるように、試しにつくったカードについて友達と見るポイントに沿って紹介できるようにする。その際、友達のカードを開いたり閉じたりしながら製作者へ質問したり思いが伝わるような工夫の余地がないか考えたりすることができるようにする。この時も、見るポイントに沿った質問や工夫について話したり考えたりできるように、板書を構造的にする。また、つくっているカードが見るポイントに沿ったものになるように、製作しながらいつでも友達と紹介し合っている子どもを称賛するようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け 発想	1 試しにつくったカードを紹介し合う時の話す視点（見るポイント）について考える。	(分) ↑ 5	○ 見るポイントについて考えられるように、参考作品について話し合わせる。 ○ 自分の作品をより思いの伝わるカードにするために、友達と紹介し合うことよきよきに気付かせる。 ○ 友達が思いの伝わるカードについて考えられるように、カードを何度も繰り返し開いてもらうようにする。
	2 学習のめあてについて話し合う。 見るポイントについてしようかいし合ったことを、自分の作品に生かそう。		
構 想	3 見るポイントに沿ってグループ同士で紹介し合う。 (1) カードについて紹介する。 (2) 製作者へ質問する。 (3) 友達のカードに対する感想を述べる。 (4) 友達の感想で、自分の作品に生かせることを発表する。	15	○ イメージと形や色、飛び出し方の関係性を明らかにし、表現へのこだわりを広げたり深めたりすることができるように友達に見るポイントに沿って質問してもらえようにする。また、関係性を意識し理由付けができるように板書を構造化する。 ④ 理由付けをすることが難しい子どもには、渡す相手の好きな色や物などを基に考えるようにする。
	<p>思いが伝わるように、お母さんにきれいな服を着させてあげたらどうかな。</p> <p>それだったら、お母さんはピンク色のドレスを持っているからピンク色のドレスを着させてあげよう。</p>		
製 作	4 カードを製作する。 ピンク色のドレスをつくってみただけどうかな。	22	○ より思いの伝わるようにするために、見るポイントに沿って感想を述べ、発表できるようにする。 ○ カードを渡す人に思いが伝わるかを確認できるように、製作中いつでも友達に作品を見てもらうようにする。
鑑 賞	5 紹介することで、作品が変わった所を発表する。	3	○ 表現へのこだわりを広げたことを実感できるように、鑑賞後に変わった自分の作品の形や色などについて発表する。
評 価	〇〇さんと紹介し合って、自分の思いが伝わるようにピンク色のドレスをつくりました。		